

◆インターネット活用教育実践コンクール実行委員会賞◆

〈両部門にかかわる活動〉

「地域視聴覚ライブラリーからの発信」

愛知県岡崎市教育委員会・愛知県岡崎市視聴覚ライブラリー

〒444-8601 愛知県岡崎市菅生町1-3-1

■実践事例報告の概要

地域視聴覚ライブラリーの縮小・閉鎖が進む中、岡崎市では、IT化が進む今だからこそ、コンテンツの宝庫であるライブラリーの存在意義があると考え、自作教材の制作や蓄積、ネットワーク配信やCATVへの番組供給を進めてきた。また、利用の利便性を考え、予約システムを構築してきた。さらに、時代の要請でもあるマルチメディア教材の制作にも積極的に取り組み、新しい視聴覚ライブラリー運営の形を模索した。

実践のねらい

近隣の地域視聴覚ライブラリーの縮小・閉鎖が進んでいる。教材・機材の貸出機関としての使命を終えたということがその理由の一つだが、果たしてそうだろうか。むしろIT化が進む今だからこそ、コンテンツの蓄積されている地域視聴覚ライブラリーの存在意義が増しているのではないだろうか。

岡崎市視聴覚ライブラリーにおける、自作視聴覚教材制作の歴史は40年をこえる。教員組織である岡崎市自作教材制作委員会との連携の中、地域に根ざした映像教材を制作、その利活用を図ってきた。そうした活動を踏まえつつ、IT社会に対応した活動を模索した。

特徴・工夫・努力した点

IT社会に対応した情報発信基地としての視聴覚ライブラリーのキーワードは、「デジタル化」である。蓄積されたコンテンツのデジタル化はもちろんのこと、教材の利用についても、利用者への「貸出・配布」から、範囲を広げて、ネットワークを活用した「配信」を視野に入れる必要がある。

また、教材制作自体についても、デジタル化を進める中で、インタラクティブな学習の提供が可能になるWeb教材の開発にも取り組んだ。

実践内容

発信基地としての視聴覚ライブラリーのあり方を求めて、次のことに取り組んだ。

- ・教材・機材予約システムを構築すること。
- ・制作教材のデジタル化をはかり、地域映像情報を蓄積すること。
- ・映像配信のしくみを作ること。
- ・デジタルの持つ特性を生かした教材を制作、利用者に提供すること。

実践結果

- (1)ホームページの運営と教材・機材予約システム
- ホームページによる広報活動はもちろん、利用者の利便性を考え、ネットワーク上での教材・機材予約システムを構築した。検索機能を持たせることで、利用者の求めている要求に瞬時に応えることが可能となった。

資料1・「ライブラリー機材・教材予約システム」画面



(2)ビデオ教材の制作のデジタル化

独自の番組制作のほか、毎年、小中学校教員からなる自作教材制作委員会を組織し、例年7本の教材制作を進めている。活動のほとんどが勤務時間外に行われるボランティアであるが、参加者の意欲は高く、毎年各種教材コンクールに入賞している。

現在、ノンリニア編集をはじめ制作のデジタル化を進めている。また、制作された映像は、デジタルビデオサーバシステム内に蓄積している。デジタル化を進める中で、作業効率が増したことに加えて、膨大な取材テープの中で利用されなかった部分についても、コンテンツとして蓄積、大きな資産とすることができている。

(3)配信の方法の多様化

教材配信の方法については、2通りの方法をとっている。一つは、CATV（ケーブルテレビ）経由の高画質な映像配信、もう一つはインターネット経由の映像配信である。個別視聴だけでなく学校を想定した一斉視聴にも対応した配信にも対応した。

CATVについては、市広報チャンネルに1日4時間の「教育放送」を行い、デジタルビデオサーバシステムから自動配信している。

ネット経由では、ホームページ上の「ライブラリー機材・教材予約システム」（資料1）より自

作教材の内容が動画閲覧できるほか、岡崎市教育委員会「OKネット」の「岡崎市自作教材」（資料2）等でWeb教材とともに動画配信をしている。

(4)インタラクティブなデジタル教材の制作

従来型の映像教材だけでなく、デジタル化によってインタラクティブなWeb教材を制作することが可能となった。

そこで、平成14年度からAdobe社のFlashを活用した地域コンテンツを自作教材制作委員会と共同で制作している。地域の素材を生かしたWebコンテンツとして、特に小学校の社会科地域教材や地域を学ぶ生涯学習講座等で活用されている。

考察（今後の課題）

40年前に廃止された市電の映像をサーバから引き出して学ぶ高齢者教室。その同じ映像が小学校のPC教室で、教材として利用されている。著作権等クリアすべき課題は多いが、地域の映像はまさに「宝」である。

IT化の波は、情報発信基地として地域視聴覚ライブラリーに新たな使命を生み出している。地域コンクールの開催やメディア講習会など、素材収集にもさらに力を入れ、必要とされるライブラリーを目指して実践を進めていきたい。